

学 位 論 文 要 旨

氏 名 白井 大祐



論 文 題 目

An immunohistochemical study of the nasal mucosa after trichloroacetic acid treatment for allergic rhinitis

(アレルギー性鼻炎に対するトリクロール酢酸治療後の鼻粘膜における
免疫組織学的研究)

指 導 教 授 承 認 印

岡本 牧人



An immunohistochemical study of the nasal mucosa after trichloroacetic acid treatment for allergic rhinitis

(アレルギー性鼻炎に対するトリクロール酢酸治療後の鼻粘膜における免疫組織学的研究)

氏名：白井 大祐

要旨

目的：トリクロール酢酸（TCA）を用いたアレルギー性鼻炎の治療は、すぐれた臨床効果を示した。この効果を裏付けるために、本研究において下甲介粘膜における Th2 細胞、Th1 細胞の浸潤数を計測し、TCA 治療粘膜と非治療粘膜間で比較した。

方法：標本はハウスダストアレルギー性鼻炎を有する 21 症例に対して、鼻中隔矯正術と共に行った下甲介切除によって得た。手術は持続する症状を軽減するために一侧のみ TCA 治療を行った後に施行された。各標本において、Th2 細胞と Th1 細胞は免疫組織染色を用いて確認された。それらの数は 1 mm² 当たりの標本面積での浸潤数を算出した。

結果：TCA 治療粘膜における Th2 細胞の平均値と標準偏差は 4.93 ± 2.83 個/mm²、非治療粘膜では 40.87 ± 15.63 個/mm² であった。TCA 治療粘膜における Th1 細胞の平均値と標準偏差は 45.34 ± 25.34 個/mm²、非治療粘膜では 124.32 ± 54.91 個/mm² あった。これらから TCA 治療粘膜と非治療粘膜の間では、両細胞数に統計上有意差を認めた。

結論：TCA 治療は Th2 細胞浸潤を抑制していたことから、アレルギー性鼻炎に対するトリクロール酢酸治療は臨床的にすぐれた効果をもたらすことを意味していると言える。